



栗田学区の これからに向けて

防災まちづくり計画策定に向けた意見のとりまとめ

12月のアンケートと、5月・6月の2回の意見交換では、たくさんの意見が得られました。以下のとおり、現時点での主な意見を整理しています。今後、来年3月の防災まちづくり計画の策定に向けて話し合いはつづきます。現時点の方向性としてご確認いただき、さらなる意見をお寄せください！



防災まちづくり 目標（案）	栗田学区らしい街並みや路地を保全した上で取り組む、災害に強いまちづくり 上の（案）に、「つながり」「コミュニケーション」「自分だけではなく、もう少しまわりも見える」「住民に優しい」「防災意識を高める」などのキーワードを加えます。
防災まちづくり方針（案）	
1 倒れない、出火しない「家づくり」 （耐震防火性強化）	●「安全性を高める」ことに、反対ではないけれど、盛り上がりません。住宅や路地がきれいになる、楽しくなるなどプラスを生み出すという視点で耐震耐火性強化に前向きに取り組む機運を高めます。 ●マイ・タイムラインの活用など、命を優先した「逃げ方」を考え、耐震防火対策と避難対策に一体的に取り組めます。
2 逃げられる「道づくり」 （避難経路の確保）	●避難ルート、集合場所について、みんなが知り、活用するように見直し、実効性を高めます。 ●路地の価値を高め、大切にします。 ●二方向避難の確保など、路地の安全性の向上に向けて、学区としての方針、町内ごとの方針を定め、具体化にあたっては、行政とも連携して取り組みます。 ●マンションの避難について、学区、町内として取り組みます。
3 安心できる「路地の管理」	●地域全体で路地の管理ルールをゆるやかに定めます。
4 コミュニケーションが弾む「豊かな路地、縁側づくり」	●① 防災、防犯について、定期的に話し合う機会をつくります。 ●② ふだんから気軽なコミュニケーションが弾むように、学区内各所に縁側のような場所を育みます。 ●③ 路地への愛着を高めるために、路地の愛称づくりに取り組みます。
5 「空き家・空き地」の管理、活用	●空き家の所有者を把握し、耐震性を確保した上で、多様な活用を進めます。
6 「避難行動要支援者」への支援	●学区全体で気運を高め、訓練やイベントなどを通じて各町内で要支援者への支援について話し合います。 ●特技をもつ人材を発掘し、要支援者と支援する人をつなぎます。

さらなる安全性の向上をめざして防災まちづくり計画策定へ

令和5年3月「栗田学区防災まちづくり計画」の策定まで残り約半年。みなさんからいただいた意見をもとに現在、「防災まちづくり計画」の検討を進めています。今後、10～11月に「防災まちづくり策定に向けた意見交換会」、その後、3月の完成に向けて話し合いをつづけます。意見交換会は、誰でもご出席いただけます。お気軽にご参加いただき、普段防災について感じていること、考えていることを話し合いましょう。

詳細は後日ご案内します。

スケジュール（予定）

※ 新型コロナウイルス感染症等の状況により変更となる場合があります。

令和4年 5月11日	6月19日	秋	冬	春
アンケート・第1回意見交換会	第2回意見交換会	防災まちづくり計画策定に向けた意見交換会	防災まちづくり計画策定に向けた話し合い	防災まちづくり計画策定

栗田学区 防災まちづくりニュース

発行：栗田自治連合会・栗田自主防災会・白川まちづくり協議会
協力：京都市都市計画局 まち再生・創造推進室 公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター 街角企画株式会社

第5号
令和4年
8月発行

防災まちづくり計画策定に向けた アンケート結果報告会・意見交換会を開催しました！



2年前（令和2年4月）から、本格的に取り組んできた、栗田学区での防災まちづくり。

他学区への視察などの「防災勉強会」、防災の視点から学区内を点検した全4回の「防災まちあるき」、500世帯以上の意見が集まった「防災まちづくりアンケート」、そして、路地入口の耐震改修などの「課題箇所解消」。この間、さまざまな防災まちづくりに取り組んできました。

3年目の今年度は、いよいよ防災まちづくり計画のとりまとめを行います。そこで、5月・6月と、アンケート結果の報告とあわせて、計画づくりに向けた意見交換会を開催しました。今回は、主に、防災まちづくりのめざしたい目標と取組みの方向性を定めた方針について話し合い、栗田学区の現状と課題をふまえた多様な意見が得られました。今後も意見交換会を開催する予定です。計画づくりに向けにご意見等お寄せください！

（第1回意見交換会）
5月11日（水）午後7時30分～
1月に実施した「防災まちづくりアンケート」の結果をご報告。アンケート結果を参考に、グループに分かれて意見交換しました。

受付・手指消毒を行い参加 安田会長よりごあいさつ 防災まちづくりアンケート報告 グループに分かれ意見交換・発表

（第2回意見交換会）
6月19日（日）午前9時30分～
東山区役所より「ハザードマップ」、「マイ・タイムライン」の紹介。グループに分かれ第1回意見交換会の振り返り、目標や方針について深堀りしました。

「ハザードマップ」、「マイ・タイムライン」の紹介 グループに分かれ意見交換・発表 第1・2回の意見交換を総括

参加者アンケートからの主なご意見・ご感想

感想

- ・他の町内会での取り組みを色々聞くことができ大変参考になった。
- ・熱心に話合わせて良かったです。防災への関心が高まった。
- ・興味を持ってくださる方をもっとたくさんこの会に誘えるようにする等、自分の町内の人を誘うようにしたい。

意見・要望

- ・まずは町内での普段からのつながりが大事だと思います。
- ・防災グッズ等設備、消火器の点検日の設定、話し合って報告するしくみをつくる。
- ・今は回覧板や会合などで町内会全員や学区民に周知させているが、今後、モバイルやスマホアプリ等活用できればと思う。

意見交換会 まとめ

1 グループ

テーマは、「倒れない、出火しない『家づくり』(耐震防火性強化)」。「耐震や防火性を高める対策と同時に、日頃から『逃げ方』(避難方法)を伝えることも大切」「安全性を高めるだけでなく、楽しくなるなどプラスの視点が大切」など、前向きに話し合われました。

自分で対策できない、
声かけを嫌がる人もいる…

一戸一戸への声かけが大切！

耐震工事など、未来に向けた
工事はモチベーション(意欲)
があがりにくい…

路地奥の物件が空き家になると
人の出入りが減り安全性が低下…
若い人が入ると安全性が上がる！

きれいになる等プラスになる工
事なら実施できるかも！将来の
不安解消より今のワクワクの方
がモチベーションにつながる！

2 グループ

テーマは、「逃げられる『道づくり』(避難経路の確保)」。「安全な避難経路確保に向けて、路地やブロック塀などの課題を共有し、路地での二方向避難の確保や、高齢者でも逃げやすい道づくり、住民へ向けた避難経路の周知などについてアイデアを出し合いました。」

昔は通れたが、今は通り抜け
られない路地が多くなった…

路地再生が重要

災害時、町内の集会所か？
直接、指定避難所に行くか？
安全な避難経路は？

二方向避難は大事。路地
の住民の意見を合わせる
機会をつくりたい。

地域で考え、行政が後押し、
地域と行政で協力！

3 グループ

テーマは、「みんなで取組む『地域づくり』(路地等の管理活動)」。「路地の管理は個人の事情もあるため難しい問題。地域全体で路地の管理ルールなどを定めてはどうかとの意見がありました。」

私物がどかせられない、
民地では注意しやすい…

行政、警察、消防等公的な
ところから声をかけてほしい

路地は個人の事情や問題が壁
権利関係も複雑…

路地にベルをつける…
塞いでいる扉をとり
二方向避難を確保したい

路地の管理については
地域全体で取り決めたい！

4 グループ

テーマは、「みんなで取組む『地域づくり』(防災まちづくりの普及、啓発)」。「防災まちづくりを普及するためには普段の気軽なコミュニケーションが大切」。定期的な話し合いの場づくりや、路地への愛着を高めるための愛称づくりなど、アイデアが飛び交いました。

意識・関心が低い…
つながりが希薄…

路地に愛称をつける！

意識を高めて啓発する

町内ごとに意識が異なり、会合や
案内が少ない、ないところもある

気軽に普段から
コミュニケーション！

町内で防災について、
定期的に話し合うようにしたい

5 グループ

テーマは、「空き家、空き地の管理、対策」。京都市や相続登記の制度、空き家の活用方法等について確認し、地域として行うべきことについて話し合いました。所有者の把握がまず大切で、「空き家活用までのステップ」で取り組み、多様な活用につなげたいと意見交換。

オーナーと連絡とれず、
共有部分の修理や対策ができない

コミュニケーションが
とりにくい

所有者の把握から、
「空き家活用までのステップ」を

相続登記が未完了だから…

シェアオフィスなど、空き家
の多様な活用につなげたい

6 グループ

テーマは、「避難行動要支援者への支援」。高齢者が多く、みなさんが安全に避難するにはさまざまな支援が必要。訓練での話し合いや、支援が必要なだけでなく、支援できる人(特技をもつ方)を把握することも大切ではないか等の意見が交わされました。

高齢者や要支援者の
安全な避難

誰が誰を助ける？

道が狭く緊急車両が
入れない

路地がデコボコ

防災はみんなが知り合
うきっかけづくり

避難しやすいきれいな
道づくりが必要

町内の人材把握、
支援できる人を把握